

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード
第4回会議 議事概要

1 日 時:令和5年3月20日(月)18:00～19:20

2 場 所:県庁6階第2特別会議室

出席者:

(構成員)

島田 勝也 座長、湊辺 美紀 構成員、米須 義明 構成員、
與那覇 正人 構成員、金城 武 構成員、幸田 すがよ 構成員、
屋比久 猛義 構成員
オンライン出席:田名 毅 副座長
欠席:東盛 政行 構成員

(沖縄県)

玉城 デニー 知事、島袋 芳敬 政策調整監、糸数 公 保健医療部長

4 議 題:ポストパンデミックを見据えた今後の方向性について
－感染症に強い沖縄社会の構築について－

5 主な委員発言
別表のとおり

別表

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
1	コロナ禍を振り返って	コロナ禍で学生には気の毒な思いをさせてしまった。オンライン授業には大学側も教員も慣れていない状況であった。2年目からは各大学オンラインの授業が定着していったが、初年度は学生には大変厳しい思いをさせてしまった。 このことを今後活かしていかないといけない。
2		face to faceの大切さも再認識することができた。ゼミのように学生と対面で議論する場も大事だということを改めて認識したところである。
3		パンデミックは社会の弱い部分を攻撃してくると感じた。社会や人の心へ大きなダメージが残っており、このことも思い至らなければならないと思ったところである。
4		3年間を振り返ったときに、多くの高齢者が亡くなられたことは非常に残念であった。そのことに対して、県内の医師と、介護施設の関係者がこれまでにないほど情報交換や連携がとれたことは、沖縄県の医療界にとっても貴重な経験をさせてもらった3年間であった。
5		それぞれの立場で苦しんだ3年間であったと思っている。 立場上それぞれに不満はあったと思うが、振り返るとそれぞれの立場で頑張ってきたのではないかと考えている。経済界も、医療界も、県もどうすれば早く収束するか、一生懸命模索していったのではないかと考えている。
6		コロナ禍においては、経済界は大変な状況であった。どのようにして経済を持ちこたえさせるか、あるいは再生させるかということについては、金融界のアドバイスも必要であると思っている。県、医療界、経済界や他分野の方に加え金融界が入れば、企業が悩んでいることを具体的にどうしていくかなどもっと早めに色々な対策を打ったのではないかと感じている。
7		経済界はアクセルで医療界はブレーキであると、あたかも対峙しているかのように言われてきたが、医療界の尽力のお陰でここまでこられたと思っているので、感謝している。

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
8	コロナ禍を振り返って	<p>3年前の4月に始業式のあと、そのまま学校休校となり、学校もいろいろな準備ができないまま生徒を帰宅させることとなった。タブレットも行き渡っておらず、先生も慣れない中で、オンライン授業を実施することとなった。今度の3月1日に卒業した3年生は、入学式は5月に分散という形で、保護者も参加できず、教室の中でリモートによる挨拶をし、HRを行って帰宅となった。</p> <p>当時は何が起きているのか学校現場でも分からず、生徒もいろいろな意味で大変であったと思っている。それでも今年3月の卒業生も、例年と変わることなく、多くの生徒が自分自身で道を切り開いて進むことができた。コロナの中であっても、生徒が自ら考え、行動する力が備わったものと思っている。</p>
9		<p>長い3年間であった。コロナが終息したわけではないが、落ち着いてきたものと思っている。世界中の医療を尽くしても3年もかかったということが、このウイルスの恐ろしさをまざまざと思い知らされた。</p>
10		<p>施設で陽性者が発生しても病床が逼迫しているため施設内療養せざるを得ない状況となった。介護職員は24時間体制で介護していることから、職員からは家族に感染させる恐れがあるので家に帰れない、何とかして欲しいとの声も聞かされたが、様々な対策を講じて、なんとか乗り越えることができた。</p>
11		<p>コロナが発生して以来、こども園・保育園では休園になったり、いろいろと苦労が続いた3年間であった。マスクを常時着用するなど生活様式も変わり、子どもたちが食事をする際は反対を向けさせたり、先生たちも、以前は子どもたちと一緒に食べていたのを別々に食べるなど、これまでとは違った保育を強いられた時期があった。コロナが段々落ち着いてきて安堵しているところである。</p>
12		<p>マスク着用が緩和されたが、自身の園では、疾患のある子どももいるということで、職員は室内ではまだマスクを着用することとしている。保護者についても、園に入る際はマスク着用を求めている。</p> <p>マスク着用については、園長の間では統一的な対応ができないかとの意見も出たが、各園長いろいろな考えがあるため、各園の判断ということになった。自身の園については、園に入る際はマスク着用という判断としたところである。</p>
13		<p>5月8日から5類に移行し、緩和されることを期待しているが、連休明けでもあるため、気を緩めることはできないかと心配している。</p> <p>以前はコロナは恐ろしいものであるという認識であったが、今ではコロナに感染したということも口にできるほどの雰囲気になってきている。</p>
14		<p>定義が変わる際には悩むこともあった。待機期間が7日から5日に変わる際には、保育現場全体で、どの意見を信じるべきかという議論も行われたりした。</p>

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
15	今後の方向性について	医療界は平常の雰囲気に戻りつつある。 新型コロナの5類移行が円滑に進むように、今週から来週にかけて沖縄県と医師会で3回ほど意見交換の場を持つ予定である。沖縄県の方針について確認を行いながら、医師会としては、その方針に併せて対策を一緒に講じていきたいと考えている。
16		医師会では、今回のコロナ禍を振り返り総括のための記録集の作成など検討しているところである。新たに関係性を築くことができた様々な団体とは振り返りを行いながら、これからも情報交換を行いながら対応していきたい。
17		医師会として、これからも経済界をはじめとするその他の団体の方々と日頃から情報交換を行えるような環境づくりを継続していきたいと考えている。
18		医療界としては、今後、新たな感染症が発生した場合には、迅速に県や今回参加された団体の皆様とスクラムを組んで対応していきたいと思っている。
19		ボードとしては、ステートメントとして提言したが、重要なのはそれをどう実行に移していくかである。
20		課題としては、我々の意見がどう反映されているのかということがもう少し見えるよう、PDCAサイクルを明確にした方がよかったのではないかと思った。
21		経済が悪くなると雇用問題や貧困の問題など負のスパイラルに陥り様々な問題に波及していく。我々は、コロナ禍で得た経験と知恵を活かして、基本的には社会経済活動を止めないことを前提に物事を考えていかないといけないと思っている。
22		国の施策で飲食業と観光業に与えられた待遇の差は反省すべき点だったのではないかと思っている。今後、万一有事が起きた場合に、自分たちができることは何なのか考えていきたいと思っているので、県においては施策で何ができるのかということをしっかり考えていただきたい。また、コロナ禍の記録もしっかり残していただき、こういうことが起こったら次はどうすべきか適切に対応できるよう整理しておくべきでないかと思っている。

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
23	今後の方向性について	これからゼロゼロ融資の返済を迎えることとなり、5、6月がピークであると言われている。コロナが終わったと喜ぶのではなく、これからゼロゼロ融資の返済を迎える中で、どのようにして中小企業を生かすかということ、我々商工会は考えないといけない立場であるので、今後とも息の長い支援と施策をお願いしたい。
24		特に飲食業では生活様式が変化したことで、夜の10時以降、客が入っている店舗はほとんどない。誰も取り残されないように我々も考えないといけないと思っているが、県も一緒になって考えていただきたい。
25		貧困問題もこれから出てくると思うので、そこも含めて取り組んでいかなければならないと思っている。
26		現在、ようやく感染症の終息が見えつつあるが、学校ではひとつの教室に40名の生徒がいるので、引き続き手指消毒、場合によってはマスクの着用を求めていく必要があるのではないかと考えている。
27		授業を行いながらオンライン授業を構築していくことは難しい。総合教育センターで1年間のカリキュラムを作るなどの支援ができればよいと思っている。
28		沖縄県の将来を担う子どもたちにあらゆる支援をお願いしたい。
29		5月からは季節性インフルエンザ同等になるが、老人福祉施設は今後も感染症対策とは切っても切れない立場であり、避けては通れない。コロナ以前から常に感染症対策は行っていた。インフルエンザの流行期にはいかにしてインフルエンザを抑えるか対策してきたところである。 今後も、コロナやインフルエンザのほか様々な感染症への対策を続けていくこととなる。
30		コロナではマスクの重要性を学ぶことができた。インフルエンザが発生した際には対策していたが、現場のみであり、事務所や厨房といったところはあまり行っていなかった。コロナを経験したことで、今後は事務所や厨房などあらゆる場所でマスク着用、手指消毒など、感染対策を今まで以上に行うべきであるものと思っている。
31		今後は、これまで以上に感染症対策を行い、今日まで得た知識・経験を活かしていきたい。
32		コロナのような感染症がまた発生したときに、今回の経験を活かしつつできるだけ早期に食い止められるよう、危機管理マニュアルに組み込んでいかないといけないと思っている。

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
33	今後の方向性について	社会福祉の現場は経済関係などが抱える問題とは違う部分もあったが、今後、今回のような感染症が起こった場合には、全体で対策を立てていければと思っている。
34		コロナ禍においては、たびたび社会活動が止まったが、今後は止めないという発想からあるべきであると考えている。 学校もオンライン授業にするのではなく、基本は登校で、健康に不安がある生徒は自宅でも学習できるという環境をつくるという仕組みができればよい。
35		今回のことで何を学び、具体的に何を発想して準備ができるかということが必要である。
36		それぞれの組織が限界を知ることが重要である。医療を提供できる限界はどれくらいであり、これ以上になるとこうなるということをシミュレーションして知らせていくことが必要である。
37		今後は、これまでのような国の支援は期待できないと思われるので、できないことは明確にし、それぞれの限界を知った上で、社会経済活動を維持していくための取り組みをそれぞれが考えていくべきである。
38		5月にコロナ感染症の法的位置づけが変更されることに伴い、医療費や検査費用の一部負担が取りざたされている。 このことにより、受診控えが発生しないよう、県においては、高齢者や生活困窮者に対し、当面の間、検査など、医療費の負担軽減策を講じていただくようご検討願いたい。
39	デジタル技術の活用について	コロナによって、デジタル技術の活用の遅れが顕在化することとなった。このことについては、本日の会議においても各委員から多くの発言を頂いた。
40		議論の中で、DXの重要性を強調する意見が多かったが、県庁でデジタルの勉強会をするのであれば、2月の勉強会で講師を務めていただいたDX分野における専門家がいつでも協力してくれるとのことなので、検討していただきたい。
41		また、パンデミックにかかわらず、すべての分野でデジタル化は必要である。コロナを受けて、あらためてスピードアップを図らないといけないと再認識した。デジタル化を加速させることと併せて、デジタル人材を作っていくことも急いで取り組まなければならないと思っている。
42		コロナ禍でDXは5年、10年進展した。リモート会議はあっという間に現実となり、よい取り組みの機会になったと思っているので、生産性の向上のためにもっと推進していきたい。

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
43	デジタル技術の活用について	今後、コロナのような感染症が発生しても、今回のコロナとの闘い、この会議の議論を踏まえ、どういうことができるか考えないといけない。その中で、DX化の推進は欠かせないものであると思っている。
44		国は行政手続きのオンライン化を進めており、本市においても住民異動届、児童手当関係、保育所入所、介護申請など、住民が特に多く利用するサービスについては、オンライン化を行っている。今後も国の音頭のもと、各市町村オンライン化が進むものと思われる。 人がわざわざ窓口へ出向かなくても手続きを行える仕組みは、感染症に強いだらうと思われる。
45	これまでの会議を振り返って	第1回目・第2回目の会議は感染拡大が続く時期であったことから、対策をどのように講じていくかが議論の中心であった。 年が明け5類への移行も見えてきた頃からは、パンデミック後の社会をどうするかという議論へとシフトしてきた。
46		本アドバイザリーボードにおいて、社会を構成する各分野の代表が同席し対策を議論することの意義と有効性を確認できたことは非常に有意義であった。本日の会議においても、各委員からはアドバイザリーボードの意義を強調する発言を伺うことができた。
47		アドバイザリーボードは知事の思いもあり、広範なメンバーが集まり、テーマも広い議論を行った。従来の会議とは異なり、4回の委員会と5回の勉強会でじっくり議論を行ったことが、このステートメントに繋がった。 施策に繋げていくという話も伺えたので、これまでの各委員の努力が、報われたものと思っている。
48		アドバイザリーボードに参加させていただき、他団体の関係者と多くの意見交換をさせていただいたことは、自らにとっても非常に貴重な経験となった。
49		当初は、医療界と県、経済界のみで意見交換していたが、他の分野ではどのような悩みがあり、どのようなことで苦労しているかがなかなか分からなかった。経済で見た視点だけではなく、様々な分野の様々な意見があるわけだが、医療界と県、経済界のみの意見交換では、なかなか見えてこなかった。だからこのアドバイザリーボードを設置し、様々な分野の委員の方々との議論は大変有意義であった。 再びこのような状況が起こった場合には、最初からこのような様々な分野の方々の意見を伺うとともに、相互理解できる場として、アドバイザリーボードの設置が必要であると改めて思った。

第4回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

各委員からの意見

番号	区分	意見の内容
50	これまでの 会議を振り返って	会議の中で、社会経済を動かすという議論では、教育や親の立場から今動かすことで、子どもたちに様々な影響があるのではないかということで、非常に不安に感じるがあった。しかし、立場の異なる様々な意見を伺う中で、今社会経済活動を動かさないと子どもたちが将来的に貧困に繋がっていくのではないかと思うようになった。様々な議論を通して、ひとり一人が感染対策をしっかり行いながら、徐々に社会経済活動を再開していくことの重要性を認識したところで、このことがコロナの終息に繋がっていくのではないかと考えたところである。
51		アドバイザリーボード会議において、立場の違う様々な分野の委員と意見交換できたことは、本当に有意義であったと思う。
52		今回各分野の代表者が集まって議論できたことは、非常に意義のあるものであったと思っている。
53		アドバイザリーボードに参加して、社会福祉のみでなく、経済や医療などのいろいろ立場の違う分野の委員の話をお伺いすることができ本当によかった。
54		コロナ禍であっても、社会経済活動を工夫しながら進めるにはどうした方がよいかという視点で参加させていただいた。
55		今回、アドバイザリーボード会議から色々なことを学んだと思っているので、それぞれの立場ができる今後の対策としてどういうことをするのかということをお各組織でしっかりと考えていくべきでないかと思う。
56		様々な課題解決には、分野横断的な連携が必要であるということをおこの会議の議論を通して学ぶことができた。 このことが、新型コロナ禍後の沖縄県の取り組みに反映できているかどうか見守って行きたいと考えている。